Doc. No.	AUT 031U-03

yamada

取 扱 説 明 書

エアーキャリー

ATC-99L　MODEL　No.881021
ATC-150L　MODEL　No.881022

⚠ 警告

安全のため、本製品のご使用の前には必ずこの取扱説明書を熟読し、記載されている重要警告事項をよく理解してください。
また、本取扱説明書をいつでも使用できるよう大切に保管してください。

YAMADA CORPORATION

－ はじめに

本書は、お使いになる本製品が故障なく充分に皆様のお役に立ちますことを念願として、正しい使用方法とご使用上の注意について説明したものです。この説明書を読む前に本製品の操作を行わないでください。特に、注意事項を熟読されると共に、常に手元においてご活用ください。なお、ご使用中に不明な点、不具合などありましたら、お買い上げの販売店、または裏面記載の弊社営業所までご連絡ください。

－ 使用目的

本機は、普通乗用車・軽自動車・自動二輪車及び原動機付自転車（一部、タイヤバルブの形状により使用不可）のタイヤ空気圧調整用の可搬式エアインフレーターです。

・ タンク内にエアを充填し、本体をタイヤまで持ち運んで作業できます。
・ 簡単な操作で、誰にでもタイヤの圧力調整が行えます。
・ タンクへのエア充填は、付属のスタンドにセットするだけで自動的に補充されます。
・ 設置の為の特別な工事は不要です。
・ 窒素ガスの補充用としても使用できます。
・ タイヤチャックは、オープンエンドタイプ以外は使用できません。
（オープンエンドタイプとは、タイヤからタイヤチャックを切り離してもエアが通じるバルブタイプをいう。
参考 反対用語：クローズドエンドタイプ：タイヤチャックを切り離すとエアが通じないバルブタイプ）

－ 警告・注意事項

本機を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。
本書では、警告・注意事項を絵によって表示しています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき操作を行う方や周囲にいる方々に加えられる恐れのある人身事故や、周囲にある物品への損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をご理解いただくようによくお読みください。

⚠ **警告：** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。

⚠ **注意：** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容を示すために、上記の表示とともに以下の絵表示を使用しています。

この表示は、してはいけない行為（禁止事項）であることをあらわしています。表示の脇には具体的な禁止内容が示されています。

この表示は、必ずしたがっていただく内容であることをあらわしています。表示の脇には具体的な指示内容が示されています。

－ 使用上の注意

下記の警告・注意事項は大変重要ですので、必ず守ってください。

⚠ 注意

－ 本機は、タイヤのエア充填機器です。他の用途には絶対に使用しないでください。

－ 本機は、簡易的な測定機器でもあります。乱暴に扱ったりぶつけたりしないでください。衝撃により正しい空気圧測定が行えなくなる場合があります。

－ 本機を乱暴に扱って破損させることのない様に、充分注意して取扱ってください。
万一、タンクを破損させますと、タンク内の圧縮エアの吹き出しや構成部品その他の飛散によって、思わぬケガにつながる等、大変危険です。

⚠注意

- 夜間・休日等、長時間使用しない場合は、スタンド部のエアチャックを取外し、エアの供給を止めてください。

- スタンドに供給するエアは、必ず 500kPa～1000kPa 未満のエアを供給してください。ご使用のコンプレッサーが 1000kPa(1MPa)以上の圧力を発生するものの場合には、必ずエアレギュレータを設置し、1000kPa 未満に減圧して供給してください。スタンドへの供給エア圧力が 990kPa を超えると、安全弁が開き排気をします。エアの浪費につながるほか、排気音が常時するので故障と間違えられることがあります。

- タイヤチャックは付属の指定品をご使用ください。クローズドエンドタイプに取り替えられますとタイヤ圧力計を破損する恐れがあります。

★本機は、タイヤ空気圧の補充を目的とした機器ですので、タイヤ交換した時のゼロ気圧からの充填には時間がかかります。

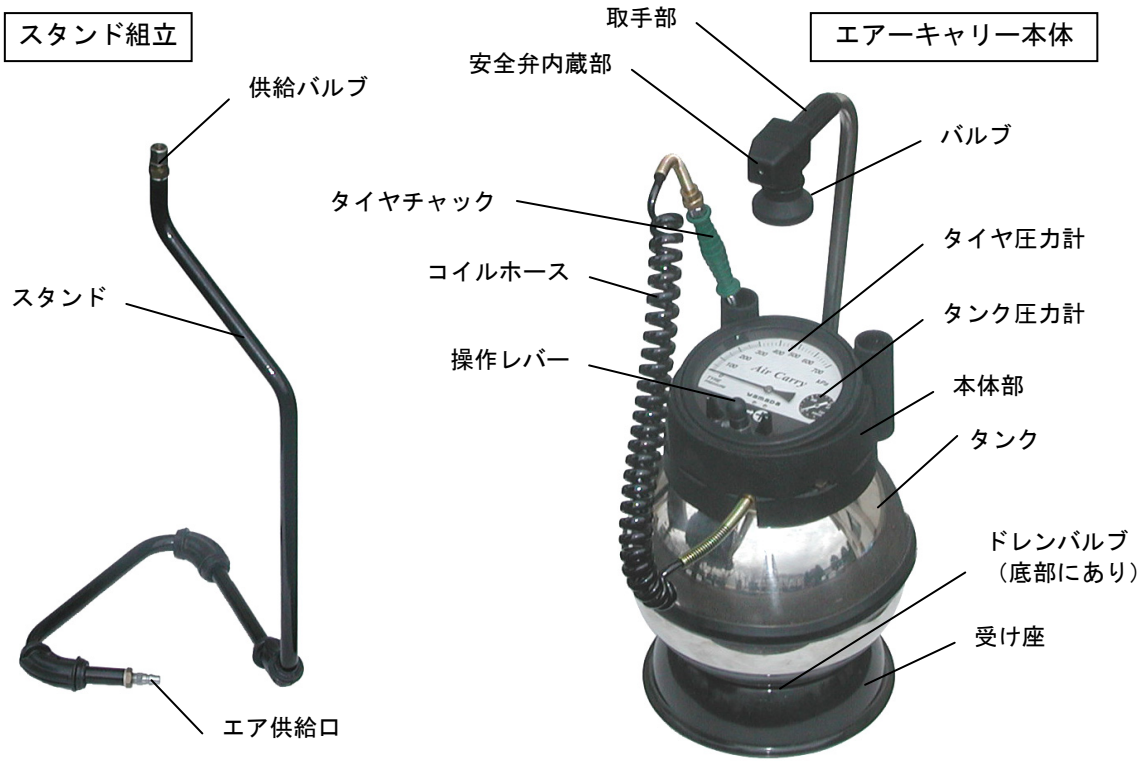
目次

- はじめに
- 使用目的
- 警告･注意事項
- 使用上の注意
- 目次

1. 各部の名称
   - 1.1 各部名称 …… 1
   - 1.2 梱包内容 …… 1
2. 使用前の準備…… 2
3. 使用方法…… 3
4. 保守･点検
   - 4.1 保守…… 4
   - 4.2 故障の点検とその対策…… 4
   - 4.3 消耗品と推奨交換時期（参考）…… 4
5. 分解･組立
   - 5.1 本体の分解と組立方法…… 5
6. 部品分解図･パーツリスト…… 6
7. 仕様…… 8
8. 不具合内容 FAX シート…… 9
9. 製品保証登録 FAX シート…… 10
10. 保証規定…… 11

1. 各部の名称

1.1 各部名称



1.2 梱包内容

本機は、エアーキャリー本体とスタンド組立とがダンボール箱に同時梱包されています。
段ボール箱の上部を開梱し、各部に損傷がないか確認してください。

2. 使用前の準備

1) スタンドを通常作業の邪魔にならない平坦な場所を選んで設置してください。（Fig.1）

＜NOTE＞

・傾斜のある所に設置すると、スタンドにエアーキャリー本体を乗せた時、接続部からエアが洩れたり、本体が倒れたりすることがあります。

2) 500kPa～1000kPa 未満のエアをスタンド部のエア供給口に接続してください。（Fig.1）
（エア供給口へのカプラー接続には、PS タイプのエアチャックを別途ご用意してください。）

Fig.1

⚠ 注意

- 安全のため、安全弁は、990kPa に工場調整されて出荷されています。安全弁は絶対にいじらないでください。
- ご使用のコンプレッサーが 1000kPa(1MPa)以上の圧力を発生するものの場合には、必ずエアレギュレータを設置して、1000kPa 未満に減圧して供給してください。
安全弁を 990kPa に設定している為、タンク内の圧力がこれ以上になると安全弁が開き自動的に排気します。排気音が常時するのでエアの浪費につながるほか、故障と間違えられることがあります。（Fig.2）

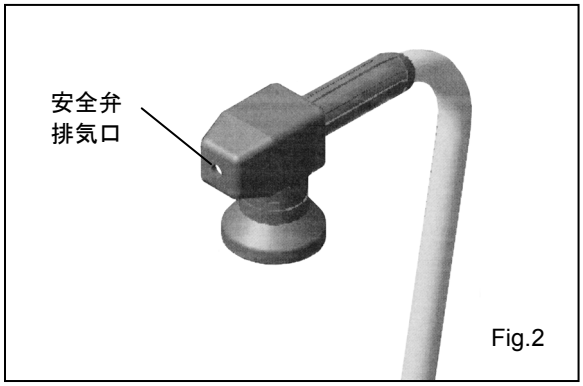


Fig.2

3) スタンドにエアーキャリー本体をセットしてください。（Fig.3）
タンク内にエアが充填され、約 1 分程度で満杯（ATC-99L の場合）になり、エアの充填は自動的に停止します。

＜NOTE＞

・エアーキャリー本体のメーター面にタンク内のエア圧が表示されます。（Fig.3）

・タンク内の圧力以上のタイヤに充気することは出来ません。

Fig.3

3. 使用方法

1) エアーキャリー本体をスタンドから取外し、充填する車の所まで持ち運びます。
2) タイヤチャックをタイヤバルブに対してまっすぐ確実に押し当ててください。（Fig.4）
この時メーターの指針は、この時点でのタイヤの空気圧を示しています。

＜NOTE＞
・自動二輪車や原動機付自転車の場合、タイヤバルブの形状によっては本機のタイヤチャックでは使用できない場合があります。

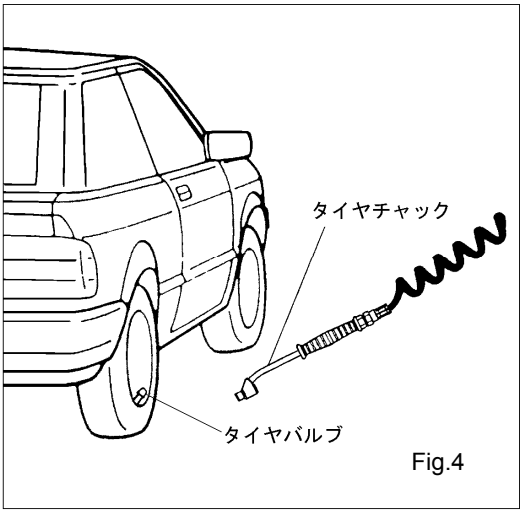


Fig.4

⚠ 注意

－ メーター内の自動車と二輪車イラストの示す圧力範囲は、あくまでも目安です。
自動車（タイヤ）等で指定されたタイヤ空気圧を確認してからタイヤの空気圧を調整してください。
空気圧に過不足があると、タイヤの損傷や事故につながる恐れがあります。

3) メーターの指針が、希望のタイヤ空気圧と合致していれば、空気圧調整の必要はありません。
4) メーターの指針が希望の空気圧でない場合は、次の要領にて調整を行ってください。（Fig.5）
・空気圧が不足の時 ⇒ ＋側にレバーを倒して充気してください。
・空気圧が過剰の時 ⇒ －側にレバーを倒して減圧してください。

＜NOTE＞
・操作レバーを少し倒すことでタイヤの空気圧の微調整ができますが、充気中や減圧中は、メーターの指針が振れますので正確なタイヤ空気圧ではありません。レバーから手を離した（中立）時が正確なタイヤ空気圧です。

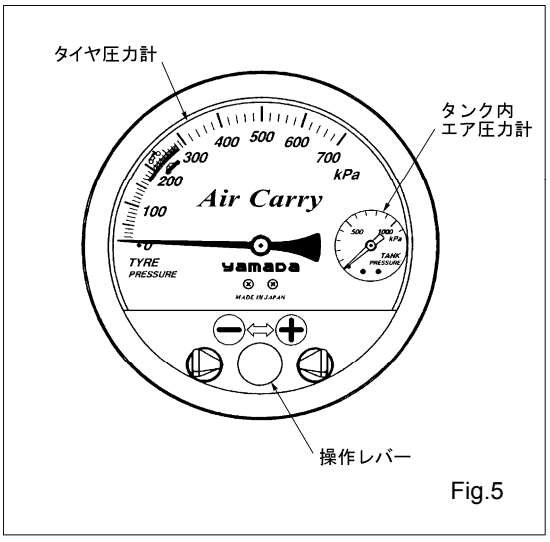


Fig.5

5) タイヤへの充填中に充填速度が遅くなった場合、タンク内のエア圧力計を確認してください。タンク内のエア圧力が不足している時は、再度スタンドにエアーキャリーをセットしてタンク内にエアを補充してください。

＜NOTE＞
・タンクの圧力が 900kPa の状態で、155R13 のタイヤを 180kPa から 200kPa に上げる場合、約 7 本分程度の充気が行えます。（ATC-99L の場合）

6) 使用後は、エアーキャリー本体を元通りにスタンドにセットし、常にタンク充填の状態にしておいてください。
7) 夜間・休日など、長時間使用しない時には、スタンドのエアチャックを切り離し、エアの供給を止めてください。

4. 保守・点検

4.1 保守

・定期的にドレンバルブを緩め、タンク内に溜まったドレンを抜いてください。終了後は必ず確実に締めてください。（Fig.6）

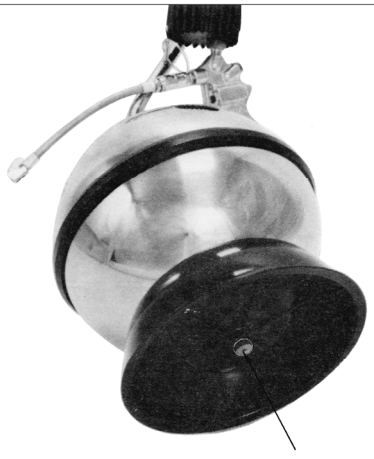


Fig.6

⚠ 注意

- 本機は、測定機器ですので乱暴な取り扱いは行わないでください。衝撃により正しい空気圧の測定が行えなくなる場合があります。
- ドレンバルブを緩める際には、よく注意しながらゆっくり緩め、3 回転以上緩めないでください。ドレンやエアが一気に吹き出したり、ドレンバルブが内圧で飛んだりするとケガをする恐れがあります。

・使用中、異常等がございましたらすぐに使用を中止し、「故障の点検とその対策」を参考に点検整備またはサービスを依頼してください。

4.2 故障の点検とその対策

状　況	原　因	対　策
タイヤチャックをセットしてもタイヤ圧力計の針が動かない	・ホース及び接続部の洩れや外れ ・メーターの故障	⇒交換 ⇒サービスに修理を依頼
タイヤチャックをセットし、＋側にレバーを倒してもタイヤ空気圧が増加しない	・タンク内のエア不足 ・バルブの故障	⇒スタンドにセットし、補充する ⇒サービスに修理を依頼
タイヤチャックをセットし、ー側にレバーを倒してもタイヤ空気圧が減少しない	・バルブの故障	⇒サービスに修理を依頼
タンク内にエアが溜まらない	・エアが接続されていない ・タンクのドレンバルブの緩み ・スタンドのバルブの故障	⇒配管を確認 ⇒ドレンバルブの点検 ⇒サービスに修理を依頼
スタンドとキャリー本体の接続部からエアが洩れる	・スタンドが傾いて設置されている ・バルブ内部部品の摩耗	⇒平らな場所に設置する ⇒サービスに修理を依頼

4.3 消耗品と推奨交換時期（参考）

804329　バルブ組立内				853743／853745　本体組立内			
部品番号	部品名称	1台当たりの使用数量	推奨交換時期	部品番号	部品名称	1台当たりの使用数量	推奨交換時期
640000	Oリング	2	約5年	708615	スプリング	1	約10年
632553	平行ピン	1	約5年	770941	バルブ	1	約5年
714799	レバー	1	約5年	770942	パッキン	1	約5年
714800	スプリング	4	約10年	770946	パッキン	1	約5年
714804	軸	2	約5年	795057	バルブ	1	約5年
795042	バルブ	2	約5年				

注）なお、消耗品の推奨交換時期は、常温環境での目安であり保証値ではありません。
また、使用環境、使用条件、使用頻度によっても異なります。

5. 分解・組立

5.1 本体の分解と組立方法

圧力計の校正を行う時や、故障時の修理の際に参照してください。
なお、内部の詳細な分解についてはサービスに依頼してください。

⚠注意

- 本体の分解や組立を行うときは、必ず保護手袋をはめて作業してください。ストッパー部品などで、思わぬケガをする恐れがあります。
- チューブを抜く時は、タンク内の圧力がゼロであることを確認してください。
  圧力が残ったままチューブを抜くと思わぬケガをする恐れがあります。

【本体とタンクの分離方法】

1) ドレンバルブを緩め､タンク内のエアを一旦抜いてください。（前頁 Fig.6）
2) 本体側面の左右の“ストッパー”をラジオペンチで矢印方向に引出してください。（Fig.7）

＜NOTE＞
・引抜ける範囲は、スライド規制ビスで動ける範囲です。（Fig.7）

3) 本体奥の“固定ビス”を＋ドライバーで外してください。（Fig.7）
4) 本体を上に少し持ち上げ､タンクに繋がっているチューブを継手から抜けば分離できます。

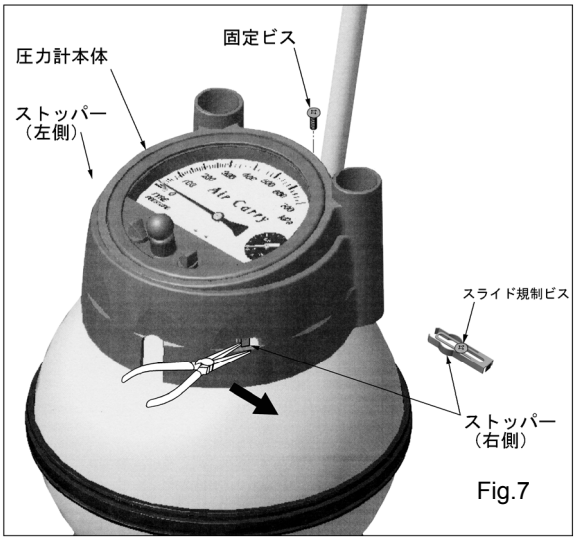


Fig.7

【組立方法】

1) 本体裏側の“バルブ本体”からのチューブを、タンク側の継手に差込んでください。
2) 本体の向きに注意してタンクに乗せます。（Fig.8）
3) 本体側面の 2 ヶ所に“ストッパー”を差込みます。2 個は平行にガイド穴を探りながら強く押込んでください。（Fig.8）

＜NOTE＞
・必ず、保護手袋をしてストッパーを押してください。
・入りにくい時は強引に押込まず、ストッパーに歪みがないか、スライド規制ビスを一旦外して確認してください。お互いのストッパーが水平、平行でないと入りません。

4) 本体奥の固定ビスを取付けます。（Fig.7）
5) ドレンバルブが閉まっているか確認し､本機をスタンドに載せ、タンクに充気してください。この時、内部のチューブ接続からエア洩れ音がしないか確認してください。

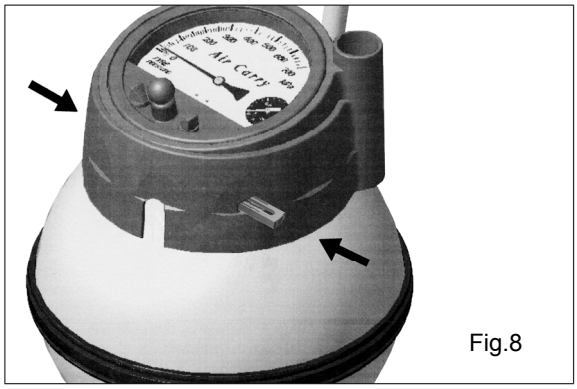
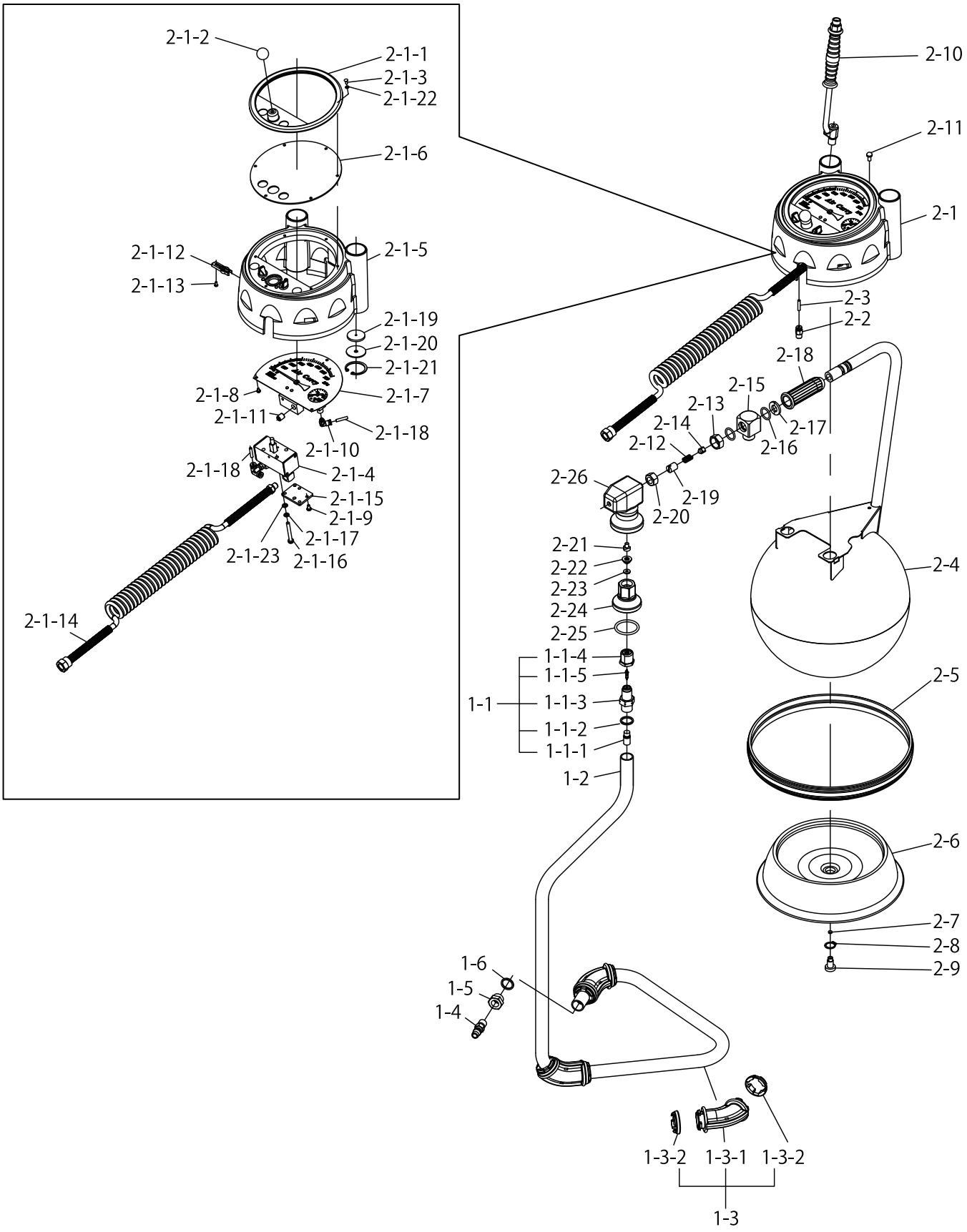


Fig.8

6. 部品分解図・パーツリスト（881021 ATC-99L／881022 ATC-150L）



スタンド組立

No.	部品番号		部品名称	員数
	853744 (ATC-99L)	853746 (ATC-150L)		
1-1	801805	←	供給バルブ組立	1
1-1-1	681170	←	サイレンサー	1
1-1-2	708584	←	座金	1
1-1-3	716729	←	ホルダー	1
1-1-4	708600	←	キャップ	1
1-1-5	686599	←	バルブコア	1
1-2	714879	714880	スタンド	1
1-3	802970	←	足組立	3
1-3-1	771690	←	足	1
1-3-2	771691	←	足止め輪	2
1-4	680743	←	口金	1
1-5	711897	←	ブッシュ	1
1-6	708584	←	座金	1

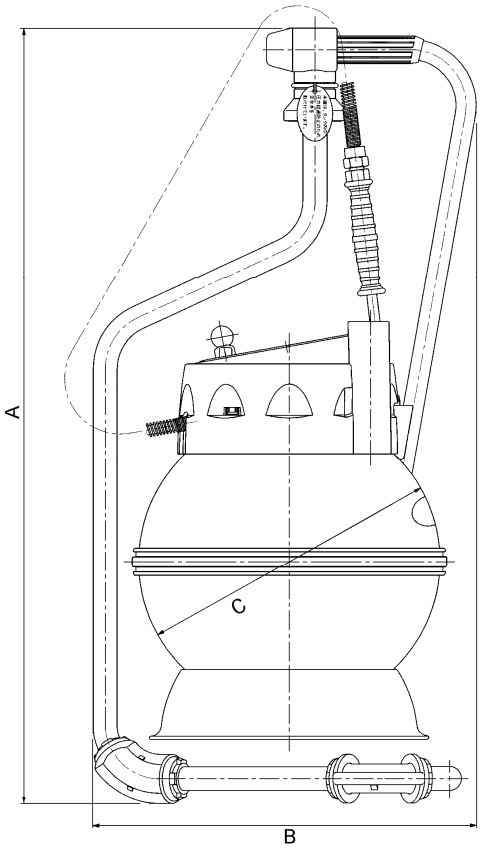
本体組立

No.	部品番号		部品名称	員数
	853743 (ATC-99L)	853745 (ATC-150L)		
2-1	804327	←	圧力計本体組立	1
2-1-1	772617	←	パネル用パッキン	1
2-1-2	685378	←	ボール	1
2-1-3	602703	←	皿小ネジ	6
2-1-4	804329	←	バルブ組立	1
2-1-5	714806	←	本体	1
2-1-6	772616	←	ウインドウ	1
2-1-7	804328	←	圧力計組立	1
2-1-8	682852	←	バネ座付なべ小ネジ	3
2-1-9	682203	←	バネ座付なべ小ネジ	5
2-1-10	685898	←	エルボフィッティング	1
2-1-11	771271	←	ブッシュ	1
2-1-12	714808	←	ストッパー	2
2-1-13	602234	←	なべ小ネジ	2
2-1-14	695774	←	コイルホース	1
2-1-15	714807	←	プレート	1
2-1-16	602292	←	なべ小ネジ	3
2-1-17	631417	←	バネ座金	3
2-1-18	570177	←	チューブ	1
2-1-19	771903	←	パッキン	2
2-1-20	714878	←	底板	2
2-1-21	630614	←	穴用C型止め輪	2
2-1-22	772638	←	シールパッキン	6
2-1-23	631011	←	平座金	2
2-2	685897	←	フィッティング	1
2-3	570177	←	チューブ	1
2-4	832622	832624	タンク組立	1
2-5	772633	772649	ガード	1
2-6	772212	←	受け座	1
2-7	770946	←	パッキン	1
2-8	630691	←	C型止め輪	1
2-9	708592	←	ドレンバルブ	1
2-10	683757	←	タイヤチャックノズル	1
2-11	683606	←	バネ座平座付なべ小ネジ	1
2-12	708615	←	スプリング	1
2-13	708581	←	ナット	1
2-14	795057	←	バルブ	1
2-15	714805	←	ジョイント	1
2-16	640016	←	Oリング	2
2-17	710060	←	スペーサー	2
2-18	771278	←	握り	1
2-19	708586	←	調整ボルト	1
2-20	627327	←	ナット	1
2-21	770941	←	バルブ	1
2-22	708616	←	バルブシート	1
2-23	770942	←	パッキン	1
2-24	708617	←	ガイド	1
2-25	640034	←	Oリング	1
2-26	772618	←	カバー	1

7. 仕様

製品番号		881021	881022
型式		ATC-99L	ATC-150L
対象流体		空気・窒素ガス	
測定範囲		0～700kPa	
充填精度		±10kPa	
圧力計精度等級		タイヤ圧：JIS B7505-1 CL1.6	
		タンク圧：JIS B7505-1 CL2.5	
最小目盛		20kPa	
タンク容量		9.9 L	15.0 L
タンク圧力		最大990kPa ＊1	
質量(kg)	本体	5.6	6.2
	スタンド	2.3	2.5
寸法(mm)	A	698	759
	B	343	363
	C	Sϕ270	Sϕ309

＊1 タンク最大圧力は、安全弁の作動圧力です。



8. 不具合内容 FAX シート

不具合･故障の原因を追求するために、及び修理サービスの充実を図るために必要となりますのでお手数ですが下記の FAX シートに必要事項を記入して、弊社営業所宛てに送信してください。

不具合内容 FAX シート	
フリガナ 貴社名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	フリガナ ご担当者名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
フリガナ ご住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	 ご所属 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ご連絡先 Tel.　（　　）＿＿＿＿－＿＿＿＿＿＿ Fax.　（　　）＿＿＿＿－＿＿＿＿＿＿
製品名	型式
使用期間 20　　年　　月 ～　　年　　月	SERIAL No. （LOT No.）
運転頻度　□連続 □断続　　hr／日･週･月	購入年月日 購入販売店
機器の状態（不具合の内容）	

9. 製品保証登録 FAX シート

・お手数ですが、下記の FAX シートをコピーして必要事項をご記入の上、弊社宛てにご送信ください。
（フリガナ指定の箇所は、必ずご記入ください。）

製品保証登録 FAX シート

フリガナ 貴社名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	フリガナ ご担当者名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
フリガナ ご住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	 ご所属 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ご連絡先 Tel.　（　　）＿＿＿＿－＿＿＿＿＿＿ Fax.　（　　）＿＿＿＿－＿＿＿＿＿＿

■貴社の業種を下記より選んで〇で囲んでください。

1.ガソリンスタンド	2.自動車整備業	3.自動車部品製造
4.車両・造船業	5.製鉄業	6.機械加工業
7.機械製造業	8.電気機械器具製造	9.半導体製造業
10.化学・プラント	11.建築・土木	12.塗料・インキ製造業
13.薬品・樹脂	14.食品製造業	15.塗装業
16.鉄道・バス・運輸業	17.窯業・陶器製造	18.印刷産業
19.鋳造業	20.石油産業	21.電気部品製造
22.軽金属・非鉄	23.織物・家具	24.バルブ

25.その他（詳しくご記入ください。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

■本機をお知りになったきっかけを〇で囲んでください。

新聞	1.日刊工業新聞	2.日本工業新聞		3.日経産業新聞
	4.日刊自動車新聞	5.燃料油脂新聞		6.その他の新聞
雑誌	7.IEN	8.化学装置	9.IPG	10.その他の雑誌
	11.販売員に薦められて	12.展示会		13.カタログで

ご購入年月日	＿＿＿年 ＿＿＿ 月 ＿＿＿ 日	ご購入目的 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ご購入販売店		ご使用条件
製品名（型式）		
製品番号		
SERIAL No.		
LOT No.		

宛先　**株式会社 ヤマダコーポレーション**
営業部　製品保証登録係
TEL. 03-3777-4101
FAX. 03-3777-3328

10.保証規定

本機は、厳重な検査に合格した後、皆様のお手元にお届けしております。取扱説明書、本体注意ラベルなどの注意書に従って正常なご使用をされたにも拘わらず保証期間内に万一、弊社の責任に基づく故障が起こりました場合には、納入日より１２か月を保証期間として、当該品を無償にて欠陥部品の手直し、修理、または新品と交換させていただきます。

ただし、二次的に発生する損失の補償及び次の場合に該当する故障についての保証は対象外とさせていただきます。

1.保証期間：製品を納入申し上げた日より起算して１２か月間といたします。

2.保証内容：期間中に、本機を構成する純正部品の材料、もしくは製造上の欠陥が表われ、弊社がこれを認めた場合、修復費用は全額負担いたします。

3.適用除外：期間中であっても、下記の場合には適用いたしません。

(1) 純正部品以外の部品を使用された場合に発生した故障。
(2) 使用・取扱上の過失による故障、保管・保安上の手入れ不十分が原因による故障。
(3) 製品の構成部品を腐食・膨潤、または溶解する様な液剤を使用されて生じた故障。
(4) 弊社、または弊社の販売店・指定サービス店以外の手によって分解修理がなされた場合。
(5) 製品に弊社以外の手によって改造・変更が加えられ、これが原因で発生した故障。
(6) パッキン、O リングなどの消耗部品の摩耗。
(7) お買上後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
(8) 火災、地震、水害、及びその他天災、地変などの不可抗力による故障及び損傷。
(9) 不純物や過度のドレンが混入した圧縮エアを動力として使用したり、指定の圧縮エア以外の気体・液体を動力として使用した場合に発生した故障。
(10) 過度に摩耗性を有する材料や、本機に不適当な油脂を使用された場合の故障。
(11) 日本国外においてご使用の場合。

尚、本製品及びその付属品に使用されているゴム部品等、あらゆる自然損耗する部品、消耗部品ならびに下記部品については、保証の適用から除外させていただきます。

・ホース類　　・各種パッキン類　　・コード類

4.補修部品：補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後５年とさせていただきます。製造打ち切り後５年を経過したものにつきましては、供給いたしかねる場合もございますので、何卒ご了承ください。

製品に対するお問い合わせは、下記営業所にお願い致します。

株式会社ヤマダコーポレーション

本社・営業部	〒143-8504 東京都大田区南馬込 1 丁目 1 番 3 号	TEL (03) 3777-4101 (代)	FAX (03) 3777-3328
札幌営業所	〒062-0002 札幌市豊平区美園二条 6 丁目 3 番 16 号	TEL (011) 821-0630 (代)	FAX (011) 821-0949
仙台営業所	〒981-3137 宮城県仙台市泉区大沢 2 丁目 2 番 3 号	TEL (022) 343-9410 (代)	FAX (022) 343-9411
東京営業所	〒143-8504 東京都大田区南馬込 1 丁目 1 番 3 号	TEL (03) 3777-3171 (代)	FAX (03) 3777-6770
名古屋営業所	〒463-0052 名古屋市守山区小幡宮ノ腰 7 番 38 号	TEL (052) 795-0222 (代)	FAX (052) 795-0444
大阪営業所	〒537-0025 大阪市東成区中道 3 丁目 15 番 2 号	TEL (06) 6971-5301 (代)	FAX (06) 6974-0497
広島営業所	〒731-5128 広島市佐伯区五日市中央 3 丁目 3 番 9 号	TEL (082) 275-5852 (代)	FAX (082) 275-5853
福岡営業所	〒812-0888 福岡市博多区板付 5 丁目 18 番 14 号	TEL (092) 581-5477 (代)	FAX (092) 581-6524

YAMADA AMERICA Inc.	955 E.ALGONQUIN RD., ARLINGTON HEIGHTS, IL 60005,USA	TEL 1-847-631-9200
YAMADA EUROPE B.V	Aquamarijnstraat 50-7554 NS Hengelo(O), The Netherlands	TEL 31-0-74-242-2032
雅玛达(上海)泵业贸易有限公司	上海市浦东新区金桥路 2690 弄 48 号 7 号门	TEL 86-21-3895-3699

201308 AUT031U